認定／特定非営利活動法人　国際協力 NGO・IV-JAPAN　Newsletter　2019.7.31 発行

IV-NEWS

Vol. 36

2018 年 7 月 23 日のアタプー被災者を忘れない！今年も奨学金で継続支援！

↑　写真上

2019 年 5 月、アタプー県副知事（冨永右隣）、県教育局長、およびカウンターパートであるラオス赤十字を訪問し、2018 年度緊急支援感謝状（約 742 万円）を副知事より授与されました。また、IV-JAPAN より 2019 年度アタプー水害被災者への職業訓練奨学金（約 450 万円）を表明しました。新規ホスピタリティ・介護訓練事業やビエンチャン都教育局及びナーサイトン郡職業訓練校において、被災者が授業料無料で訓練を受けられるよう、特別枠を設けました。

←　写真左

また、2019 年 7 月にはラオ山喜株式会社様よりたくさんのシャツを寄付していただきました。これらはラオス赤十字を通じて、アタプー水害被災者へ配布されました。素敵なシャツを手に取り、とても喜んでいました。

【外務省】地方の女性・青年の就業促進のためのホスピタリティ・介護職業訓練

【なぜ、ラオスで介護？】

不思議に思われる方もいらっしゃるのではないでしょうか？

首都ビエンチャンは多くの観光客でにぎわっています。杖をつきながら歩いておられる高齢の方や、車いすの方も少なからず見かけるようになりました。ラオスは、観光地として人気が高いだけでなく、高齢者の方の長期滞在や旅行先、リタイアメント先としても注目されています。しかしながら、現状では、高齢者の方が快適に過ごすにはまだまだ課題があります。

そこで IV-JAPAN は、ホテルなどで働く技術、つまりホスピタリティ技術を学ぶと同時に、介護技術も学ぶことができる、ラオス初のホスピタリティ・介護訓練を 2019 年 8 月から実施いたします。卒業生は、ホテル技術と基礎介護技術を持ち、今後増加すると思われるホテル・ゲストハウス、家事代行者、介護施設、長期滞在型サービスマンション、独居老人宅などで働く予定です。また、隣国のタイなど高齢化が進んでいる国での就業の可能性も見込まれます。

皆様も、リタイヤ後の旅行先のひとつとしてラオスはいかがですか？

雨が続く中、校舎建設をゆっくり、いそぐ

【ゆっくり、いそぐ】

この事業は、ビエンチャン都内中心部から約 21 キロ離れたナーサイトン郡で行われます。私たちが支援している裁縫・理美容・調理の訓練を行っている職業訓練センターの隣で、ゆっくりと建設が進んでいます。正直なところ、開講までに間に合うのか？とやきもきしていました。現場監督の人に聞くと、「大丈夫！」と答えます。雨が多いこの時期、作業は滞りがちです。しかし、天候は私たちではどうにもなりません。焦っても何の意味もないのですね。雨を仰ぎみる大工さんたちの姿をみていると「ゆっくり、いそぐ」という言葉が浮かんできました。私も気持ちを切り替える良い機会になりました。

【とにかく体を使って覚える】

ビエンチャン都内にある国際的なホテルチェーンであるサマーセットにて、ホテル課程の実習を行わせていただきます。カリキュラムの打ち合わせでお邪魔した際、「一度やってみたら？」とホテルのスタッフに言われ、私もベッドメイキングにチャレンジしました。しかし、難しい・・・。私は全然できませんでした。スタッフの方から「とにかく体を使って覚えるんだよ」と言われました。あっという間にベッドが整えられていく様は、ただただ驚くばかり。このようなスタッフの皆様から教えていただける訓練生は幸運です。恵まれた環境で実習を行うことができて、サマーセットホテルの皆様には感謝です。

サマーセットスタッフによるしわ一つないベッド

【より多くの人々に職業訓練を】

本事業では、地方に住む貧困家庭の女性および青年に加えて、遠隔地に住む少数民族も対象とした職業訓練を実施し、就業による生計向上を目指します。ラオスは近年、年 8%の経済成長を達成していますが、その恩恵を受けているのは主に都市部の住民に限られており、地方では未だ貧困に苦しむ住民が多く存在します。またラオスは 50 の民族からなると言われていますが、極めて少ない少数民族も含めると 130 民族とも 230 民族とも言われています。これらの民族は主に都市部から遠く離れた地域に居住し、教育や職業訓練を受ける機会が少なく、職を得ることも難しいのです。IV-JAPAN は長年、貧困に苦しむ人々を対象に職業訓練を行い、彼らの就業、経済的な自立を支援してきました。私は、こうして就業や起業した卒業生を見る度に、ドナーの皆様からの奨学金により、彼らのその後の人生が変わったことを実感しています。

これからも、皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

【JICA】ラオス木工職業教育校のトレーナーの技能向上プロジェクト①

6 月 24 日から 8 月 30 日までの 10 週間、ラオス各県の職業教育校の木工トレーナーを首都ビエンチャンに招集し、技能向上のためのトレーナー研修を行います。昨年度の研修では、スツール、事務机、クッション椅子を制作し、家具塗装と木工機械整備の技術を学びました。今年度は、カフェテーブル、棚、ラウンジチェアを制作、家具デザインと木材乾燥の技術を学びます。

今年度は日本から 3 名の専門家の方々にご参加いただきます。家具職人の石橋幸治先生に家具製作を、武蔵野美術大学名誉教授の寺原芳彦先生に家具デザインを、東京大学名誉教授の信田聡先生に木材乾燥をご指導いただきます。

開会式の様子。ラオス家具組合や JICA ラオスも参加

【1 週目（6/24～6/28）】

1 週目は、コンピューターを使った 3D デザインと毛引き（※）の製作を行いました。コンピューターを使っての家具デザインに苦戦する訓練生も多かったのですが、コンピューターを使って図面を描くことにより、手計算では難しい部分の長さを簡単に求められることを全員が理解することができました。また、毛引きは、ほぞ穴などの位置に印をつけるための道具です。参加者一人ひとりが、刃物の研ぎ方、ノミの使い方を学びながら１つずつ製作しました。

※毛引き・・・木材に平行な線を引くために用いる道具

毛引き制作の様子

【2 週目・3 週目（7/1～7/12）】

2 週目 3 週目には家具デザインを学びました。世界の椅子の紹介から、デッサンやスケッチ、三面図の描き方、模型の作り方など、家具製作前の図面を描くまでの工程を学びました。特に、思い付いたアイデアをすぐに家具にするのではなく、何度も何度もスケッチを通してアイデアを練り直して、それから三面図を描いた後、やっと家具作りに入ることができるという「過程の大切さ」を学ぶことができたのは大きな成果です。また、最初は椅子の脚が床についていないようないびつな形をしていた訓練生のスケッチでしたが、全員が形の良いバランスの取れた家具のスケッチをすることができるようになりました。

寺原先生によるスケッチの指導

【4 週目（7/15～7/19）】

4 週目はカフェテーブルの制作です。寺原先生に教えていただいた三面図を描くところからスタートです。寺原先生のご指導のおかげで、訓練生全員が時間内にカフェテーブルの三面図を描くことができました。三面図を描いた後、参加者全員で話し合い、一つ一つのパーツのサイズ、ほぞの大きさ、ほぞ穴の深さなどを 0.1 ミリ単位で決めていきました。このトレーナー研修では、実際の制作の前にしっかり準備することを重視しており、1 ミリのずれも無い家具作りを行います。

石橋先生によるジグ（型）作りの指導

本プロジェクトは 2018 年 1 月 16 日から 2022 年 1 月 15 日かけての 4 年間のプロジェクトで、前半 2 年間の山場は、この 10 週間の主任トレーナー研修です。後半 2 年間は、前半 2 年間で学んだことを生かして、カウンターパートである VEDI（教育省職業教育開発研究機関）の木工教員が中心となっての主任トレーナー研修の実施や、木工教科書の制作を行う計画です。後半 2 年間の活動がより実りあるものとするためにも、今年度の主任トレーナー研修の学びが最大限になるよう努めていきます！

【JICA】ラオス木工職業教育校のトレーナーの技能向上プロジェクト②

寺原　芳彦（短期派遣専門家　2019 年 6 月 29 日 ～ 2019 年 7 月 14 日 武蔵野美術大学 名誉教授）

2019 年 7 月 1 日～7 月 12 日まで、ラオス職業教育機関において木工トレーナーの指導を行ないました。私は専門領域がデザインであり、果たして現場中心のトレーナーへの指導が有効か責務を感じるところがありました。しかしながら脇役であるデザインを主役と捉え、作品／製品づくりに至る前段階のスケッチ、図面、模型づくりの重要性を説き実践しました。すべて基本の理解と把握を指導できたと思います。その成果は 2 週間後の講評にて確認できました。特に「スケッチ」の意味と描き方には注力し、「ものつくり」における重要性の伝達は確信できました。同時に、思考性、アイデア抽出についても触れ、受講生の関心を呼び起こしたと感じました。

また滞在中に家具リビングフェアにおいて講演をし、デザインと技術及びコンセプトを述べ、理解と評価を得て表彰されました。しかしラオスにおけるデザインの意識は、まだ発展途上のように思われ、その辺りの教育がいかなるものかを知りたくなりました。但し彫刻を施した家具は、伝統を有し、基本造形にも魅力を感じ、市場の再構築に期待がもてます。あらたな展開として、ラオスの日常生活の見直しによる一般普及用家具も望まれます。

石橋　幸治（短期派遣専門家　2019 年 4 月 21 日 ～ 2019 年 11 月 30 日）

2019 年 4 月に赴任してきました。去年に続き 2 回目の赴任です。今年も、日本のきめ細かく丁寧な家具作りを指導します。

ラオスには「ボーペンニャン」という「どうにかなるさ」というような言葉があります。人付き合いなどの面で温かいこの精神に魅力は感じますが、家具作りにおいて「どうにかなるさ」という意識は厳禁です。技術面の指導はもちろんですが、気持ちの面で、一つ一つの行程を丁寧に行っていくことの大切さも伝えていきます。プラスマイナスゼロミリ誤差のない家具作りを、主任トレーナー研修の目標の一つとしています。今回の赴任を通して、丁寧に作られた家具が完成したときの成功体験を主任トレーナー研修の参加者、カウンターパート先の教員や生徒に伝えていきます！

IV 理事紹介　豊田　利久　－IV-JAPAN との関わりは偶然の連続－

若い頃の私を知っている人からは、「なぜ途上国、ラオス、そして NGO に関心を持ったのか？」とよく聞かれます。それは、偶然の連続の結果です。

50 歳くらいまでは、母校でもある神戸大学で計量経済学という分野の研究をしていました。経済学のなかでも数学や統計学を駆使してモデル分析をする分野です。1993 年に、大学内に国際協力研究科が誕生しました。国際社会で活躍する人材育成をするための独立（学部を持たない）大学院です。途上国の経済発展計画のためにはモデルに基づく分析も必要であろうという理由で、私はその大学院新設に加わりました。とは言え、私はそれまでの学会活動はもっぱら欧米を向いていました。途上国に関心があり熱意もある院生が全国から集まってくれました。これではいかんと、機会を見つけてはアジアの途上国に実情調査に出かけました。タイのメコン川の対岸からラオスののんびりした農村風景をみて、いつか川向こうに行ってみたいという気持ちを持っていました。

95 年に阪神大震災が起き、JICA 神戸センターが神戸市中心部の工場跡地に移転する案が浮上しました。外務省と JICA の課長さんがそろって移転先の下検分に来られた時の雑談で、外務省の課長さんが「豊田さんはどこか関心のある国があるか」と聞かれ、即座に「ラオス」と答えました。それから約半年後、突然外務省から電話があり、「ラオス国で初めての経済経営関係の学部創設を日本に依頼してきているので事前調査に行ってほしい」という要請でした。それから長いラオスとの付き合いが始まりました。7 年間に及ぶラオス国立大学経済経営学部の創設という高等教育分野での事業です。日本が中心となって外国の国立大学に社会科学系の学部を創設した例は、現在でもこれ以外にはありません。教員の育成も一段落し、卒業生もラオスの各分野で活躍しています。しかし、この事業に従事しているときも、ラオスでは初等教育から高等教育まで、特に職業訓練を含むすべてのレベルの人材育成が必要であることはよく認識しました。

ビエンチャン在住の日本人がまだ少なかった 98 年に、初めて代表の冨永さんにお会いしました。当時は、JICA と NGO はまだ一定の距離を持っており、IV も JICA の支援を受けておらず、私自身も JICA 専門家という身分でしたので、お話しする機会も多くはありませんでした。しかし、分野は異なってもラオスの人材育成に懸命に取り組んでいる点では共通でした。2001 年、私が長期専門家を離任した際に IV 理事の就任の依頼を受けました。しかし、神戸から埼玉に出かけることは容易ではなく、実質的な役員の仕事ができないことをいつも申し訳なく思っています。

IV 理事紹介　金野　喜久子　－チャンスに恵まれない人々もターゲットにする－

18 年ほど前、IV-JAPAN 主催のスタディツアーに参加したのがキッカケで、それ以来、IV-JAPAN のラオス支援に微力ながら協力させて頂いております。

この十数年のラオスの変化は著しく、市場経済化により豊かになっているけれども、格差が解消されていないとも言われています。その課題を解決するために、例えば IV-JAPAN「ホスピタリティ・介護事業（チャンパー山の民奨学金）」は、地方に住んでいてチャンスに恵まれない人々もターゲットにしているという点で、有効な事業です。地方の方にも門戸を開き、ナーサイトン郡の訓練校の近くに新訓練所を建設して、地方からの学生も学ぶチャンスを作っています。

以前、私自身の研究のための調査で、IV-JAPAN のナーサイトン職業訓練校（縫製・調理・理美容コース、ハンドオーバー済み）の卒業生にインタビューをお願いしたことがあります。色々な村を訪ねて話を伺うと、女性たちが、パワフルで、誇りを持って仕事に従事していることがわかりました。私自身の学生の頃、「女の人も手に職を持って自立することが大事だ」と聞いたことがあります。まさに、手に職を持つことで、自信を持って経済活動に参加しているという感じでした。この体験もあり、ラオスにおける IV-JAPAN の職業訓練校の事業は、大変意味があると考えており、ナーサイトンの活動には、期待しております（もちろん、他の活動にも）。

ところで、昨年の４月の ປີໃຫມ່ລາວ（ピーマイ・ラーオ：ラオスの正月）の頃、ルアンパバーンを訪れました。象の行進、砂の塔婆祈願、王宮前での新年の行列、朝の托鉢、王宮のパバーン仏をワット・マイに運び水かけの儀式を催す等のイベントを体験して、ラオスの人々の日常生活に触れてきました。そこでのもう一つの目的は、IV-JAPAN のブースで販売できるような布や小物を探すことでした。布については、私が小物入れなどにして販売したところ、少しですが売り上げがありました。私の密かな目標は、チャンパー山の民奨学金の一人分を生み出すことです。もし、見事達成できたら、二人分に挑戦します。素人の私がやってみようと思ったのは、ナーサイトンの IV-JAPAN 職業訓練校で学んだ女性たちの生き方に影響を受けたということは間違いありません。

寄付者紹介　長田　茂野 様　－「誠を捧ぐ」生き方－

小豆島『二十四の瞳』平和の群像

1980 年、常夏の国タイのバンコクで冨永さんと私は出会いました。家が近く、また子どもも同い年なこともあり、お互いに行き来して楽しく過ごしました。冨永さんは多彩で、お料理やお菓子はもちろん、息子に可愛いリュックサックやバックを作って下さいました。また、長男の誕生日にクラス全員を招待した時、冨永さんが歌やゲームをして盛り上げて下さった事は、忘れられない思い出です。

大らかで小さいことにとらわれないような方だとしみじみ思いました。育ちの良い方ですので、接していて心が癒されます。女性でありながら偉大な事業をやってのけて、何てカッコイイ人でしょうといつも尊敬しております。

ラジオ深夜便で冨永さんのお話を聞いた友人が、その語り口に何とも言えない温かい人柄を感じ感動し、ご主人共々すぐにネパール事業に寄付をして下さいました。一度もお会いしていない方に魅了されてしまったとのこと、冨永さんの人柄の素晴らしさを物語るエピソードです。

私は『二十四の瞳』で有名な、「東洋のエーゲ海」と称される小豆島に生を受けました。菜の花が咲き始める浅春の頃、お偏路さんがその頃は白装束でチリンチリンと鈴を鳴らしながら徒歩で訪れていました。もう 70 年も昔の光景です。母は自分で作った大豆や小豆を大事に取っておいて、呉汁（ごじる）を作ってお偏路さんにお接待をしておりました。何十年もの間変わることなく一期一会の旅のお偏路さんに誠を捧げている姿は尊くて、心に強く残っています。お接待の文化が島の人々に沁み込んでいます。尊いことだと小豆島に生まれた事に感謝しています。

捨て身で異国の人々のために誠を捧げられてる冨永さんのお姿に、ただただ合掌です。

ラオス日本文化紹介

-国際協力にはラオス／日本の双方の文化を理解することが不可欠-

当会は設立以来「ラオス青年民族舞踊団＝Young Artists for Peace /YAP」を日本に招聘してラオスの結婚式、バーシースックワン（精霊を呼び込むための儀式）、民族舞踊、音楽の紹介を 10 回ほど日本で行ってから、来年は 20 年になります。当時のラオスの青年たちが 20 周年を記念して日本に来ることを計画しています。ラオスに来る日本人にはラオス民族衣装の試着やラオス料理を学ぶ機会を設けています。

ラオスでは日本文化紹介を 1998 年からスタディツアーに参加した会員により、茶道、華道、書道、着物ファッションショウ、盆踊り等を紹介し、また日本大使館や日本人会等に協力して、日本文化紹介を行っています。現在は茶道表千家教室が常設され、月 1～2 回茶道教室が開催され多くのラオス人はじめ外国人、日本人が学んでいます。今年は英語落語の第一人者である鹿鳴家英楽（かなりやえいらく）師匠の協力で英語落語の会を 4 月 29 日に開催することができ、多くのラオス人に喜ばれました。

↑ ラオス料理教室の様子
← ラオス民族衣装試着

↑ ラオス　表千家茶道教室の様子

↑ 4/29　ラオス英語落語の様子

第 16 回総会報告（2019 年 6 月 22 日開催）

【経常収益】

受取寄付金	10,030,560 円
受取助成金	10,581,377 円
事業収益	17,268,561 円
その他収益	255,645 円
合計	38,286,143 円

【経常費用】

事業費	30,923,921 円
その他経費	5,479,580 円
合計	36,403,501 円

【経常外収益】

合計	3,718 円

当期正味財産増減額	1,886,360 円
前期繰越正味財産額	3,589,100 円
次期繰越正味財産額	5,475,460 円

役員（2019 年 7 月 1 日～2021 年 6 月 30 日）

役職	氏名	担当
代表理事	冨永　幸子	
副代表理事	池田　敏秀	総括
副代表理事	河島　一郎	国内活動
理事	伊藤　裕子	財政
理事	上田　義朗	アドバイザー
理事	大野　宏江	国内活動
理事	金野　喜久子	国内活動
理事	斎藤　加代	ラオス
理事	サハジ　スレスタ	ネパール
理事	利根川　恵子	埼玉県・さいたま市
理事	豊田　利久	アドバイザー
理事	福永　文代	国内活動
理事	森本　進	財政
監事	安田　昌美	

2018 年度 実施事業概要

	事業名	内容
1	タイ・ラオス　カノック奨学金支給	タイ 40 名、ラオス 78 名に奨学金を支給。
2	ラオス　木工トレーナーの技能向上職業訓練 （JICA 草の根パートナー型事業）	各県の木工トレーナーを対象に、技能向上のための研修を実施。（1 年次）
3	ラオス　ホスピタリティ・介護職業訓練 （外務省 NGO 連携支援無償資金協力事業）	2019 年 3 月 1 日より 1 年次が正式に開始。
4	ラオス　水害被災者緊急支援 （ジャパンプラットフォーム助成金事業）	南部アタプー県にて 2018 年 8 月 30 日から 9 月 29 日にかけて緊急支援を実施。
5	ラオス　中古消防車・救急車輸送 （埼玉県国際交流協会 中古資機材供与事業）	中古消防車、救急車をラオスへ輸送。
6	ネパール　手工芸職業訓練 （埼玉県国際交流協会助成金事業）	ネパール･ゴルカ郡･パティスワラ村にて、村の女性グループを対象に手工芸職業訓練を実施。
7	ラオス　教育資材寄贈 （日本ラオスなかよしキッズ協会共同事業）	日本からラオス水害被災者へボールペンを寄贈。
8	ラオス　IV-JAPAN ラオス事務所	茶道教室や民族衣装体験等を実施し、国際交流・理解の促進に寄与。
9	ラオス　スタディツアー・インターン生受け入れ	団体の活動やラオス文化の紹介を通じて、国際的に活躍する人材の育成に寄与。
10	日本　各種国際イベント出展	日本国内の各種国際イベントに出展し、活動紹介やアジア雑貨の販売を実施。
11	日本　アジア文化理解講座	ラオス語教室やラオス料理教室を実施し、国際理解の促進に寄与。
12	日本　30 周年事業報告会	創立 30 周年を記念して、資生堂美容技術専門学校にて事業報告会を実施。

【埼玉県国際交流協会】　中古資機材リサイクル国際協力事業

2019 年 7 月、中古消防車および救急車が日本を出発し、無事にラオスのビエンチャンレスキュー1623 の元に到着しました。各車両のメンテナンスや在ラオス日本大使館との引落式が完了した後、いよいよ 2 台の車両がラオスで活躍します！

【 寄付者一覧（2019 年 4 月 1 日～2019 年 7 月 31 日）】 ※日付順・敬称略

【 チャンパー山の民奨学金　寄付者一覧 】

伊藤裕子（300,000 円）、川鍋佳代子（60,000 円）

【 カノック奨学金　寄付者一覧　1 口 12,000 円】

三澤純子（2 口）、伊藤裕子（3 口）、James A Cummings（1 口）、土屋多賀子（1 口）、中田みどり（1 口）、和田治江（1 口）、山口愛子（1 口）、松下倶子（1 口、）八木道子（1 口）、小松文子（1 口）、冨井伊都子（1 口）、澤埼せゐ子（1 口）、開　洋子（1 口）、五十嵐香苗（1 口）、岡庭史子（2 口）、菊原享子（1 口）、利根川恵子（1 口）、河口道子（1 口）、高橋陽子（1 口）、賀元澄子（1 口）、岩月優子（1 口）、石井直子（1 口）、斎藤雄太（1 口）

【 国際協力費・運営費　寄付者一覧　※2,000 円未満は省略させて頂きます。】

伊藤裕子（3,004,000 円）、高岡万葉ロータリークラブ（200,000 円）、齋藤友美恵（3,000 円）、小林愛子（3,000 円）、中田　みどり（3,000 円）、山口愛子（3,000 円）、松下倶子（3,000 円）、上田義朗（3,000 円）、田中兄一（3,000 円）、小松文子（3,000 円）、佐復正雄（3,000 円）、五十嵐香苗（3,000 円）、菊原享子（3,000 円）、利根川恵子（3,000 円）、賀元澄子（3,000 円）、西條真理子（20,000 円）、中村梨絵（20,000 円）、岩月優子（3,000 円）、石井直子（3,000 円）、飯村　浩（6,000 円）、古谷朋子（5,000 円）、風間和江（5,000 円）

【 ラオス水害支援 2019】

上田義朗（2,000 円）

【 ドナー募集 】

○カノック奨学金、国際協力費・運営費、チャンパー山の民奨学金、各ドナーを随時募集しています。

①カノック奨学金ドナー　　1 口 12,000 円
②国際協力費・運営費ドナー　個人:3,000 円以上／団体・法人:10,000 円以上
③チャンパー山の民奨学金　　1 口 60,000 円

○申込方法　※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。
郵便振替　:（口座番号）　00140-5-537168　**（加入者名）IV-JAPAN**
銀行振込　:埼玉りそな銀行浦和中央支店　普通預金　口座番号:5038052

認定・埼玉県指定　特定非営利活動法人　国際協力 NGO・IV-JAPAN

当会へのご寄付は、寄付金控除の対象になります。

日本事務局
〒330-0856　埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-545-2-101
TEL/FAX:048-622-8612
E-mail: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp
http://iv-japan.wix.com/iv-japan

ラオス事務所
P.O Box7920 Vientaine, Lao PDR
TEL/FAX : +856-21-316047
E-mail: ivjapan.vte@gmail.com

タイ事務所
Continental Mansion 34/7 Soi Lertpanya (Rajavithi9),
Rangnam, RajavithiBangkok 10400 Thailand
E-mail: valaikorn@hotmail.com

（IV-JAPAN QR コード）　（アカウンタービリティセルフチェックマーク）